

| | | | |
|-----|-------------|------|---|
| 科目名 | 日常生活活動評価学演習 | 担当教員 | 久保田 健太※ 山中 正紀※ 小川 峻一※ 野陳 佳織※ ※印は実務経験のある教員を示す。 |
|-----|-------------|------|---|

| 開講専攻 | 分野 | 種別 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
|-----------|------------------------|----|------|------|-----|------|
| 理学療法学専攻 | 専門科目 | 選択 | 2年次 | 後期 | 1単位 | 演習 |
| ナンバリングコード | 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | | | | | |
| HR21AE | ② | | | | | |

| | |
|------|--|
| 科目概要 | 本科目では、「日常生活活動学（理学療法）」および「日常生活活動評価学」で学んだことを基に、3種の模擬障がい体験演習を通し、実際の日常生活活動や評価につながる視点や考え方を学習する。また、適切な介助法や指導法、福祉用具や各種支援機器の活用方法を学習して、対象者の持つ生活上の問題を具体的に解決できる能力を養う。 |
| 学習目標 | ① 各種疾患によって生じる日常生活活動（動作）障害の特徴を理解し、説明することができる。 ② 障害の特性を踏まえた日常生活活動に対する介助法や指導事項を考えることができる。 ③ 移動支援機器や介助支援機器などの適応、使用方法を理解することができる。 |

| 回 | 項目 | 主な学習内容 | 到達目標 | 実務経験教員担当項目 |
|----|-------|-------------------|--|-----------------|
| 1 | 演習 1 | オリエンテーション（科目概要） | 科目概要及び演習内容について理解することができる。 | 久保田 野陳 |
| 2 | 演習 2 | 寝返りの介助法 | 寝返りの介助方法を理解する。 | 久保田 野陳 |
| 3 | 演習 3 | 起き上がり、その他床上動作の介助法 | 起き上がり、その他床上動作の介助法を理解する。 | 久保田 野陳 |
| 4 | 演習 4 | 移乗動作の介助法 | 移乗動作の介助法を理解する。 | 小川 野陳 |
| 5 | 演習 5 | 模擬障がい体験の準備 | 模擬障がい体験の準備として、テーピングや装具などを使用し関節を制限する練習などの事前準備を行う。 | 久保田 小川 野陳 |
| 6 | 演習 6 | 模擬障がい体験の準備 | 模擬障がい体験の準備として、テーピングや装具などを使用し関節を制限する練習などの事前準備を行う。 | 久保田 小川 野陳 |
| 7 | 演習 7 | 模擬障がいの ADL 体験演習 | グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。 | 久保田 小川 野陳 |
| 8 | 演習 8 | 模擬障がいの ADL 体験演習 | グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。 | 久保田 小川 野陳 |
| 9 | 演習 9 | 模擬障がいの ADL 体験演習 | グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。 | 久保田 小川 野陳 |
| 10 | 演習 10 | 模擬障がいの ADL 体験演習 | グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。 | 久保田 小川 野陳 |
| 11 | 演習 11 | 模擬障がいの ADL 体験演習 | グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。 | 久保田 小川 野陳 |
| 12 | 演習 12 | 模擬障がいの ADL 体験演習 | グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。 | 久保田 小川 野陳 |

| | | | | |
|----------------------------|-------|---|---|-----------------|
| 13 | 演習 13 | 模擬義足を用いた、義足体験 | 模擬義足を用い、義足での ADL 動作を体験・見学する。 | 山中野陳 |
| 14 | 演習 14 | まとめ 1 | 各種 ADL 動作の介助方法を整理し、理解を深める。 | 山中野陳 |
| 15 | 演習 15 | まとめ 2 | レポート作成を通じ各障がいにおける ADL の特徴を整理し、実際の ADL や評価につながる視点や考え方を深める。 | 久保田 小川 野陳 |
| 評価方法 | | レポート (90%)、講義に対する姿勢 (10%) | | |
| 課題に対するフィードバック | | 1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する (フィードバック)。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。 | | |
| 教科図書 | | 特になし | | |
| 参考図書 | | 奈良勲、鶴見隆正・著『標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第4版』医学書院、2012年 細田多穂・監『シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第2版』南江堂、2014年 伊藤利之、他・編『新版日常生活活動 (ADL) ー評価と支援の実際ー』医歯薬出版株式会社、2010年 齋藤宏、松村秩、矢谷令子・著『姿勢と動作 第3版』メヂカルフレンド社、2010年 | | |
| 学習の準備 | | 授業のテキスト当該箇所の予習やグループ学習計画 (45 分) を行い、授業終了後は復習またはグループ内ディスカッション (45 分) を行うこと | | |
| オフィスアワー | | 月曜日 13:00~14:30、その他在室時はいつでも可 | | |
| 担当教員欄に※印を付した教員の実務経験 | | 久保田健太・山中正紀・小川峻一は、民間病院で日常動作における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 | | |